キャラクター名
支那守 結弦（シナモリ ユヅル）

プレイヤー名

シンドローム	ブラム＝ストーカー ウロボロス	ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	高校生
オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	死	衝動	吸血	初期侵食率	35 %
出自	疎まれた子	経験	実験体	邂逅	新しい人生

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	2	1	2			5
感覚	3	0	0			3
精神	3	0	0			3
社会	0	0	1			1

HP	33
行動値	9
(非装備時)	9
戦闘移動	14
全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	6		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1	2	調達	1	
運転：			芸術：ﾃﾚﾋﾞﾋﾞｹﾞｰﾑ	1		知識：ﾚﾈｹﾞｲﾄﾞ		1	情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：面影島		5
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
紅き魔剣《赫き剣》	白兵	5r+9		+8+3		HP[LV*2]まで消費し攻撃力へ計上

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
銀なる石：太陽	CP1話幕間成長：勉強会
銀なる石：木星	CP2話幕間成長：砕けた意志、溶ける絆
コネ：UGN幹部	
造血剤	
契の簪（思い出の一品）	
島で出会った友人たちとの写真	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
無垢なる石	P	N		
死柄器 焔（GR）	P 信頼	N 不安		
相模原 結期（RE）	P 誠意	N 恐怖		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4	残り財産P： 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
リミテッドイモータル	4	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： HP+[LV*2]								
赫き剣	4	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果： 〈白兵〉武器作成								
コンセ：ブラム=ストーカー	2	2	メジャー	-	-	-		
効果： C値-[LV](下限7)								
鮮血の一撃	2	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果： 判定ダイス+[LV+1]、HP2消費								
ブラッドボム	3	1	メジャー	-	-	対決	-	
効果： HPダメージ後更にHPダメージ[LV-1]D10、同値失う								
シャドーテンタクルス	★	1	メジャー	10m	-	対決	-	
効果： 射程変更								
生命治癒	★	-	メジャー	至近	単体	自動	-	
効果： 怪我や病気を治す、死者は蘇生できない								
超越的能力	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： EE1[LV]個の効果を強化する								
変貌の果て	★	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果： オーヴァードになる前と後で外見が変わっている								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

10年前に一度死んで覚醒した、文字通り血液の青かった少年。
被検体として扱われ、化物と蔑まれて過ごすも、遥か遠くの島で再会を果たしたことで、今は人間として生きている。

【覚醒・逃亡・保護】
生まれは特筆すべきことのない一般家庭の一人息子。六白家とは近所であり、同い年の傷無とは幼馴染として育った。
6歳の夏のある日、ジャームの襲撃により大怪我を負って覚醒。しかしその際に大量に血液が失われ、生命を繋ぐためには輸血が必要だったのだが、適合する血液が見つからなかった。しかし彼は賢者の石の適合者であったため、無謀な賭けであったが蘇生手段として賢者の石を移植された。それは傷口から彼の体に馴染み、不足した血液としての役割を担って今に至る。
賢者の石との適合時に発生したショックにより色素欠乏症に陥っており、賢者の石の蒼が体表に現れるようになった結果、外見も通常の人間とは異なるようになった。
外見が通常のままであるのならば日常へ戻すことも考慮された可能性はあったが、あまりにも違いすぎるそれを誤魔化すことなどできず、世間的にジャームに殺害されたこととして処理される。更には周囲の人間からの扱いも重なり、自分自身への認識が非常に曖昧となった結果、生きることに対する執着が弱まっていた。

結晶体ではない賢者の石の持ち主ということで貴重な被検体として扱われる。彼の血液は全てが賢者の石であり、摘出してもその能力は維持され、減少しても一定の時間を過ごせば血液と同様に新たに作られる。賢者の石を生み出す存在として扱われた彼は研究所から出ることを許されずに過ごすが、それに対して疑問を覚えることもしなかった。
体調が優れており、かつ研究に協力せずとも良い日があれば、研究所に付随したチルドレン育成施設にて他のチルドレンと交流することもあったが、元来内向的な性格であり、それに外見的コンプレックスが重なって自分から誰かに近寄っていくことは少なかった。
しかし、チルドレンたちの中心人物でもあった相模原結期とは良好な関係であり、特異な体質のため体調を崩すことも少なくなく、スケジュール的に外へ出られる日であっても控えなければならない日には彼の方から訪ねてくることもあったという。